



【 レビ記 】

17:11 実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、裁断の上であなたがたのたましいのために
宥めを行うよう、これをおあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。

【 詩篇 】

22:1 わが神 わが神 どうして私をお見捨てになったのですか。 私を救わず 遠く離れて
おられるのですか。 私のうめきのことばにもかかわらず。

22:2 わが神 昼に私はあなたを呼びます。 しかし あなたは答えてくださいません。
夜にも私は黙っていられません。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年 4月 3日 (日)

礼拝メッセージノート

「 イエスの贖いは人類の確かな希望 」

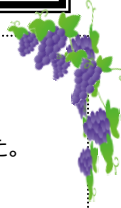
「イースターを覚えて①」 イザヤ書 53:10~11ほか 小野寺 望 牧師

【 イザヤ書 53章 】

10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは 【主】のみこころであった。
彼が自分のいのちを 代償のささげ物とするなら、
未長く子孫を見ることができ、
【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。

11 「彼は自分のたましいの 激しい苦しみのもとを見て、満足する。
わたしの正しいしもべは、 その知識によって多くの人を義とし、
彼らの咎を負う。

(4ページへ続く)



◆はじめに ～メシアの受難と復活を覚えて

1.聖書を読むための原則 ～真理（光）とフェイク（闇）のはざま

- (1) 聖書を字義通りに読み、神の計画を理解する必要がある。
- (2) 聖書の無謬性を否定し、それに妥協する聖書観に惑わされない。
 - ①この世界は光と闇の戦場であり、巧みな情報戦が繰り広げられている。
*両者を疑えという意味でない。闇（悪魔）は偽る者であり、光（真理）を選び取れ。
 - ②聖書を巧妙に否定するフェイクニュース ～みことばをねじ曲げる悪魔の企て
*人間中心の哲学思想（18～19世紀） カント、ヘーゲル、シュライエルマハー
*文書批評学の悪用、それ以外に営利主義、共産主義、進化論・・・無神論
 - ③イザヤ53章の歴史性を疑った高等批評の過ち：疑う者のバイアスが判断を狂わせた。

2.聖書を信頼し、イザヤ53章から神の計画を学ぶ

- (1) イザヤ53章は、イエスの十字架と目的、それを受け入れる人々についての預言。
 - ①贖いによる罪の赦しや道徳的きよめを約束する預言である。
 - ②考察：この預言は完全に成就したのだろうか？→イスラエルの救いの問題
- (2) イエスの十字架がもたらす意味を、聖書全体・神の計画全体を含め検証する。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

└十字架に感謝し、神の愛を喜び語ろう。

*このメッセージは、十字架に感謝し、神の愛を喜んでイースターを迎えるためのものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I 旧約時代の一時的な贖い

～イザヤ53章を読む前提として、旧約時代の罪の赦しを理解しよう。

1.モーセの律法におけるキーワード「血による贖い」

- (1) 律法全体の要約ともいえることば (2) レビ記17：11
- (3) イスラエルの律法が命じる祭りはずべて、「血を流す」ことを要求している。
 - ①7つの例祭：過越しの祭り、種なしパンの祭り、初穂の祭り、五旬節（ペンテコステ）、ラッパの祭り、贖罪の日、仮庵の祭り。

◆血の言及について

- *過越しの祭りで流される血は、出エジプトの際、動物の血により裁きから免れたことが起源である。メシアを信じる人々が神の裁きを免れることを示す預言であり型である。
- *最初に流された血（動物の死）は、アダムたちが墮落した直後、二人の体を覆う毛皮を神が用意した時である。
- *レビ17：11は、贖罪の日の記述（16章）に続いて言及されている。

2.繰り返される動物のいけにえ

- (1) 祭りへの参加の命令
 - ①イスラエル人男性は、律法によって年に3回、エルサレム巡礼を命じる。

- ②それは経済的にも、時間的にも大きな負担であり「残れる者」（レムナント）と呼ばれる少数のまことの信仰者のみが従い通した。

II 受難のメシア

1.苦しみを伴う贖い ～詩篇22：1～2

- (1) イザヤ53章と類似しており、詩篇の方が前に書かれた。
 - ①有名なメシア詩篇であり、前半は受難、後半は高揚が描かれている。
 - ②メシアの十字架での叫びは、人類の身代わりとして、神の怒りが一点に注がれたことを意味し、この聖句は十字架の贖いを預言したものである。
- (2) 19～21節も同様に十字架での祈りである。
 - ①御父を頼り、その愛を示すために十字架での死にさえ従った（ピリ2：8）
 - ②メシアは（御父の）しもべとして表され、また神【主】ご自身であられる。

2.ただ一度の完全な赦しを求めて

- (1) イザヤ53章はまさに、これらの内奥の実現を預言したものである。
 - ①神の御心は、繰り返されるいけにえでなく、究極の血を備えることである。
 - ②イザヤ53章は、レビ記と同じような用語やたとえを用いて書かれている。
*罪無きメシアは、罪人の侮辱さえ甘んじて受け、御心を成し遂げられた。
- (2) もう一つの視点 ～神の赦しの方法
 - ①「その知識によって、多くの人を義とし」
*「知識」のヘブル語直訳は、「彼（メシア）を知る知識」である。
*ヘブル的な「知る」は体験を伴い、その方を知り、私の罪のために死んでくださったと知る者は、義と宣言される。
 - ②義とされるために：罪を贖うために、メシアの血が流されることが前提である。

III 時代の備え ～罪の赦し以上の計画

- (1) バビロンによるエルサレム崩壊は、メシア誕生の備えの完成である。
- (2) イエスの十字架・復活は、光の国の勝利の備えが完成したことを意味する。
 - ①この世の支配者の裁き：空中の権威を持つ偽りの支配者サタンを指す。
 - ②1コリ15：22～24

◆まとめ：十字架に感謝し、神の愛を喜び語ろう。

1.福音をありのまま受け取り、神から愛されていることを知る。

- (1) 「贖う」という言葉の意味

2.主イエスの受難から考えよう：①人類の罪の大きさ ②神の愛の大きさ ③父への従順

3.今日、世界に充満する罪の問題への、唯一の解決がここにある。

- ①人間の罪と、永遠の滅びの解決 ②その背後にいる悪魔の企ての敗北
- *イエスの復活は、贖いのわざがすべて有効であることの証明。
 - ③地上で繰り返される悲劇に対する希望は、御国の時代である。